

火災や災害が起きたとき大切なのは 職場や地域での人と人とのつながりです。

今回の大災害で防災・防火の大切さを、痛感された方も多いと思う。大災害の現場で活躍する校友がいる一方、事業所の防災など日々の地道な活動で、社会や暮らしの安全・安心を支えている校友もいる。防災意識が高まる中、人の役に立つ仕事をしたいと東京消防庁に入庁した奥寺弓子さんは、あらためて大きなやりがいを感じている。

人の役に立つ、 社会に貢献する仕事に。

「就活」にあたってデスクワークではなく、なるべく体を動かし、また、人の役に立つような仕事をしたいと思っていました。就職課に置いてあった東京消防庁のパンフレットを読んだり、母の義理の兄が消防関係に勤務していたので話を聞き、私の希望に合った職場だと感じました。

入庁後は消防学校で教育を受けてから、町田・高輪・日本橋・本郷の各消防署で、主に査察係として建物の立ち入り検査を担当しました。いまは一定の規模や人数の事業所を対象に、防火

管理の指導、自衛消防活動の指導など、予防面を主に担当しています。消防法は従来の防火中心から阪神・淡路大震災、新潟県中越地震を踏まえ震災対策が必要ということで、平成21年6月より一部改正されました。大規模な建物には、自衛消防組織の設置と防災管理者の選任が求められており、そうした制度の説明や、運営などのアドバイスも行っています。災害等が発生しますと痛手を受けますし、事業所の規模の大小にかかわらず心に傷を負います。そうした点を理解してもらえるよう、あまり積極的でない小さな事業所さんにも、必要性について事例を挙げて説明するなどの努力をしてきたつもりです。相手の方に納得してもらえると、凄くやりがいを感じますし、建物の安全も高まりますので、うれしいですね。

また、自衛消防では日頃の訓練成果を確認する、「自衛消防審査会」というものが、各署で行われています。最初は規律も使い方もままならなかったメンバーたちが何回か訓練を重ね、本番では他の隊に引けを取らないくらいに成長するのを見るのはうれしいですね。終わったときは握手や拍手で、私も仲間させていただいたような気持ちになります。

訓練に参加して、 自分の命は自分で守る。

「東日本大震災」についてですが、

奥寺弓子

東京消防庁
予防部
防火管理課
自衛消防係 主任

おくでら ゆみこ ●1993
(平成5)年、法学部法律学科卒業。1970年生まれ。神奈川県出身。卒業後、東京消防庁に入庁。消防学校で教育を受けた後、町田消防署・高輪消防署・日本橋消防署・本郷消防署などを経て現職。ちなみに、ご主人も本学出身。



私の主人の兄も岩手県の消防署に勤務しており、話を聞くと、まったく予想もしないような状況で大変だったようです。自分だったらどのように対応していたか、非常に考えさせられました。3.11以後、自分たちの事業所や建物は自分たちで守る、という意識が高まっているように感じます。校友の皆さんの職場や町内会などでも、消防や災害の訓練があると思います。お仕事が忙しいときと重なることもあるかと思いますが、ぜひ参加してほしいですね。一度でも、訓練を経験しておく職場の建物の構造、通れない通路などが分かります。普段、エレベーターを使っていると、階段の場所を知らない人も多いと思います。こうした訓練を通して、いざという時のために、人と人との「つながり」を深めておくことも大切だと思います。(談)

卒業記念

「専修大学時代はテニスサークル、セブテンパーに所属していました。これは、卒業するときに、後輩たちからもらったもので写真や寄せ書きなどで構成されています。いまでも、とても大切にしています」

